

丹波地域ビジョンに係る指標

1 目的

- ・改訂丹波地域ビジョン（平成23年10月策定）が目指す、5つの将来像（自立、交流、元気、絆、安全安心）を実現するため、ビジョンの取組方向と関連する指標を設定し、ビジョンの実現状況をフォローアップする。
- ・丹波地域の力を数値で測る指標（ものさし）を設定することにより、丹波地域の「強み」や「課題」などを明らかにする。

2 指標の種類

（1）客観指標

- ・国勢調査など定期的に調査が行われている統計
- ・丹波県民局等の定期的な調査・把握で、地域の特徴を表すと考えられるもの 等

（2）主観指標

- ・「県民意識調査」項目のうち、5つの将来像の実現状況の把握にふさわしい項目

（3）ビジョン委員会の活動成果等を測る指標

- ・実践活動グループごとに、活動そのものの成果を測るアウトプット指標と、活動による地域の変化等をとらえるアウトカム指標を設定

3 指標の基準年（度）と最新数値

- ・平成23年10月に改訂丹波地域ビジョンを策定したことから、その前年である平成22年（度）を指標の基準年（度）とし、統計等の調査間隔が数年に1回という項目については、平成22年（度）の直近の数値を基準値とする。
- ・最新年（度）については、主観指標は令和元年度調査値、客観指標は令和元年度末の集計値を記載しているが、集計時点で、調査非該当年等により令和元年度分が未公表の項目については直近値を最新数値とする。

4 指標の評価

（1）客観指標、主観指標

- ・基準年（度）と最新年（度）の数値を比較し、将来像ごとに上向き項目、下向き項目の数等によりその実現状況をフォローアップする。
- ・主観指標については、全県値と比較することで丹波地域の「強み」や「課題」を把握する。

（2）ビジョン委員会の活動成果を測る指標

- ・数値を明らかにすることで各グループの活動実績、効果等を確認し、それぞれの活動の成果や課題を把握する。

5 令和2年度の評価

- * 全体では、128項目のうち76項目（59%）が基準年に比べて上向きの数値を示しているものの、各将来像で見ると、「絆」の指標において下向きの項目数が上向きの項目数を上回っており、特に高齢者が暮らしやすく活躍できる社会への取組みが低調である。
- * 全県値との比較が可能な44項目中では、28項目（64%）が全県より高い数値を示している一方、将来像「元気」の指標において過半数の項目が全県値を下回っており、働きやすい環境や、商売・事業のスタートアップ環境の整備といった取組が求められる。

基準年(平成22年(度))との比較 [客観指標・主観指標]					全県値との比較 [主観指標のみ]			
<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 上向き ■ 横ばい ■ 下向き</p>					<p>0% 50% 100%</p> <p>■ 高い ■ 低い</p>			
将来像	項目数 (%)				項目数 (%)			
	上向き	横ばい	下向き	計	高い	低い	計	備考
自立	12 (52)	0 (0)	11 (48)	23 (100)	5 (100)	0 (0)	5 (100)	県内最上位 :1項目
交流	12 (57)	0 (0)	9 (43)	21 (100)	7 (78)	2 (22)	9 (100)	県内最上位 :1項目
元気	16 (62)	0 (0)	10 (38)	26 (100)	3 (37)	5 (63)	8 (100)	
絆	12 (44)	1 (4)	14 (52)	27 (100)	5 (63)	3 (37)	8 (100)	県内最上位 :1項目
安全・ 安心	24 (77)	0 (0)	7 (23)	31 (100)	8 (57)	6 (43)	14 (100)	県内最上位 :2項目
計	76 (59)	1 (1)	51 (40)	128 (100)	28 (64)	16 (36)	44 (100)	

(1) 基準年と最新年の比較（客観指標・主観指標）

①将来像1：みんなで創る“自立のたんば”

◇基準年より大きく向上している項目

- ・住んでいる地域に誇りや愛着を感じる [47.4% → 68.2%]（全県値 65.2%）
- ・NPO 法人数 [43 団体 → 67 団体]
- ・「ひょうごアドプト」の団体数 [18 団体 → 28 団体]

◇基準年より大きく低下している項目

- ・地域の自治会や地域で活動している団体に活気があると感じる [43.5% → 30.1%]
 - ・地域づくりの担い手が育っていると感じる [32.8% → 21.5%]
- * NPO 等による住民の自主的な地域活動が活発に行われ、地域への誇りや愛着を感じる人も増加している。
- * 自治会等、既存の枠組による活動が低下傾向にあり、地域づくりの担い手育成も課題となっている。

②将来像2：都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

◇基準年より大きく向上している項目

- ・恐竜化石関連施設への来訪者数 [48,767 人 → 118,935 人]
- ・田舎暮らし相談者数 [327 人 → 699 人]
- ・山林や川などの自然環境を守る取組に参加している [24.4% → 39.8%]（全県値 30.4%）
- ・住んでいる地域のまち並みはきれいだと思う [55.3% → 62.6%]（全県値 63.5%）

◇基準年より大きく低下している項目

- ・太陽光など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人 [35.8% → 25.6%]（全県値 22.5%）
 - ・地域の自然環境は守られていると思う [65.3% → 57.1%]（全県値 52.7%）
 - ・自然の生き物とふれあう機会があると思う [58.0% → 49.4%]（全県値 40.1%）
- * 恐竜化石等の地域資源を活かした交流や、移住・環流の取組が成果を上げている。
- * 環境に関して、保全活動への参加割合が増加する一方、個人や地域全体のエコ意識や、生き物とのふれあいの機会が低下している。

③将来像3：やりがいを実感できる“元気なたんば”

◇基準年より大きく向上している項目

- ・栗新植面積 [4.5ha → 29.7ha]
- ・丹波産素材（丸太）生産量 [15 千m³ → 52 千m³]
- ・観光客入込数 [4,416 千人 → 5,072 千人]
- ・観光などの訪問客が増えていると思う [21.8% → 36.3%]（全県値 25.4%）
- ・自分の仕事にやりがいを感じる [57.7% → 62.4%]（全県値 61.8%）

◇基準年より大きく低下している項目

- ・農林業（家庭菜園や里山体験などを含む）に魅力を感じる [56.2% → 43.0%]
- ・商売、事業を新たに始めやすいと思う [12.8% → 8.1%]（全県値 8.4%）
- ・就職フェア in たんば参加者数 [224 人 → 21 人]

- * 農林業や観光の実績、仕事のやりがいに係る項目が向上し、地域資源を活用した産業振興の取組に成果が現れている。
- * 一方で、起業のしやすさや農林業への魅力を感じる人の割合は低下傾向にある。また、有効求人倍率の上昇等を背景に、就職フェア等の参加者が減少している。

④将来像4：多世代が支え合う“絆のたんば”

◇基準年より大きく向上している項目

- ・ファミリーサポートセンター会員数 [485人 → 572人]
- ・放課後児童クラブ数 [25箇所 → 33箇所]
- ・心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う [39.3% → 45.6%] (全県値 38.4%)
- ・異なる世代の人とつきあいがある [55.7% → 68.7%] (全県値 55.0%)
- ・これからも住み続けたいと思う [61.0% → 69.0%] (全県値 74.3%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・小規模集落数 [29箇所 → 108箇所]
- ・子育てがしやすいと思う [52.7% → 50.6%] (全県値 55.9%)
- ・高齢者にも暮らしやすいと思う [47.5% → 43.2%] (全県値 50.5%)
- ・高齢者の知恵や経験が積極的に活用されていると思う [31.4% → 24.6%]
- * 少子化が進展する中で、子育て環境の向上が図られているが、子育てがしやすいと思う人の割合は減少している。
- * 異世代交流や住み続けたいと思う人の割合は大きく増加し、地域づくり、絆づくりが成果を上げている。
- * 高齢化の進展により小規模集落（高齢化率 40%以上かつ 50 世帯以下の集落）が増加し、高齢者が暮らしやすいと思う人の割合も低下している。

⑤将来像5：ともに暮らす“安全安心なたんば”

◇基準年より大きく向上している項目

- ・人口 10 万人あたりの医師数 [165.7人 → 206.1人]
- ・かかりつけの医者がある [69.1% → 77.6%] (全県値 74.2%)
- ・心身ともに健康であると感じる [58.2% → 68.3%] (全県値 66.6%)
- ・災害に備えた話し合いや訓練に参加している [34.0% → 42.1%] (全県値 31.6%)
- ・地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う [31.7% → 43.2%] (全県値 37.2%)
- ・若者が希望を持てる社会だと思う [4.9% → 10.4%] (全県値 11.9%)

◇基準年より大きく低下している項目

- ・医療機関の適切な受診を心がけている [88.2% → 78.5%]
- * 医療環境が向上し、健康増進や地域医療に係る取組の成果が現れている。
- * 防災に関する意識や取組も向上している。

(2) 全県値との比較（主観指標）

① 県内 10 地域のうち最上位となった項目

- ・住んでいる地域を良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい
[丹波地域 50.0%、 全県 36.9%]
- ・ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい
[丹波地域 42.2%、 全県 35.3%]
- ・山や川、海などの自然環境を守るための取組みに参加している、またはしたい
[丹波地域 39.8%、 全県 30.4%]
- ・頼りになる知り合いが近所にいる [丹波地域 71.1%、 全県 65.4%]
- ・異なる世代の人とつきあいがある [丹波地域 68.7%、 全県 55.0%]

地域活動・社会活動への積極的な関わりが丹波地域の「強み」と捉えられる。

② 全県よりも 10 ポイント以上高い項目

- ・観光などの訪問客が増えていると思う [丹波地域 36.3%、全県 25.4%]
- ・災害に備えた話し合い・訓練に参加している [丹波地域 42.1%、 全県 31.6%]

* 地域をよりよくするための取組の成果が現れている。

③ 全県値を大きく下回る項目 ※県内 10 地域中最下位となった項目は無し

- ・県内のどこへでも便利に移動できると思う [丹波地域 36.3%、 全県 51.1%]
- ・買物や通院に便利だと思う [丹波地域 43.0%、 全県 53.9%]
- ・駅前や商店街に活気が感じられる [丹波地域 6.1%、 全県 15.0%]
- ・住んでいる市町の公共交通は便利だと思う [丹波地域 13.8%、 全県 38.7%]

* 生活の利便性や暮らしやすさに関する項目が、地域の課題として浮き彫りとなっている。

(3) ビジョン委員会の活動成果を測る指標

- * 平成 30 年度から 2 年間、第 9 期委員が 6 つの実践活動グループで特色ある事業を展開した。グループの活動実績を測るアウトプット指標から、一定の成果につながったといえる。
- * 活動による地域の変化等を測るアウトカム指標も、基準年との比較では全ての将来像で向上しているが、直近年度との比較では将来像「安全・安心」で低下しており、第 10 期委員の実践活動における新たな取組みを通じ、ビジョンの将来像の実現を目指すこととしている。